

## 2003年 ISAF 総会報告 <オリンピック・レガッタ における捨てレース>

2003年 ISAF 総会は11月7日-17日、バルセロナで開催された。

今回、一番注目された議題はオリンピックのレース・フォーマット変更で：

「オリンピックの最終レースは捨てレースとすることはできない。選手は最終レースを帆走しなければならない」

という、ポール・ヘンダーソン会長から提出されたものである。

カウンスル（評議員会）においてこの提案はかなりの時間を割いて討議され、最後にヨット・ジャーナリストとして世界的に有名なボブ・フィッシャーが意見を求められて発言した内容は、「自分はセーリングをメディアにのせるためにかなりの努力をしているが、一般の人たちが一番理解できない部分は、ある時点から捨てレースによって順位が大きく変わったり、最終日をまたずに優勝者が決定してその最終レースに出場しなかったりすることである」というもの。

これは非常に説得力があり、カウンスルの最終的な決定はもともとの提案を更に厳しくしたものとなった。

「オリンピックでは捨てレースはなしとする」

このニュースは世界を駆けめぐり賛否両論、おおきな反響をよんだ。特に選手にとって今まで慣れてきたレース展開を、精神的、戦略的に大きく左右する問題である。オリンピック艇種であるクラス協会からも反対の意見が強かった。ISAF に対して決定見直しの要請があいついだことから、12月中旬、ISAF カウンスル・メンバーがEメールで再投票をおこなった。

結果は僅差ではあるが「**捨てレースなし**」の決定を撤回することとなった。

もともとの提案である「最終レースは捨てレースとできない」は6月のミッドイヤー会議で討議される。また、検討事項には以下のものも含まれる。

- \* スタート直後への OCS（リコール）艇への通知
- \* タイムリミットが生じた場合の得点方法（今の得点方法では、数艇しかフィニッシュしなかった場合に点差がつきすぎる）
- \* 規則 42 条（推進方法）違反についてのペナルティ

ミッドイヤー会議は6月3~6日、カリフォルニア州サンディエゴで開催される。